

個別支援によりデイケア通所に 繋がった思春期症例への関わり

医療法人耕仁会札幌太田病院 1)2階デイケア課 2)心理・内観課

○藤本扶美子1) 長濱千絵美2) 植木達也1)



はじめに

集団への葛藤、対人不安の強さからデイケアへの導入が困難であった症例に対し、信頼関係の構築を意識した関わりを行ったところ行動の変化がみられたため、その取り組みについて報告する。

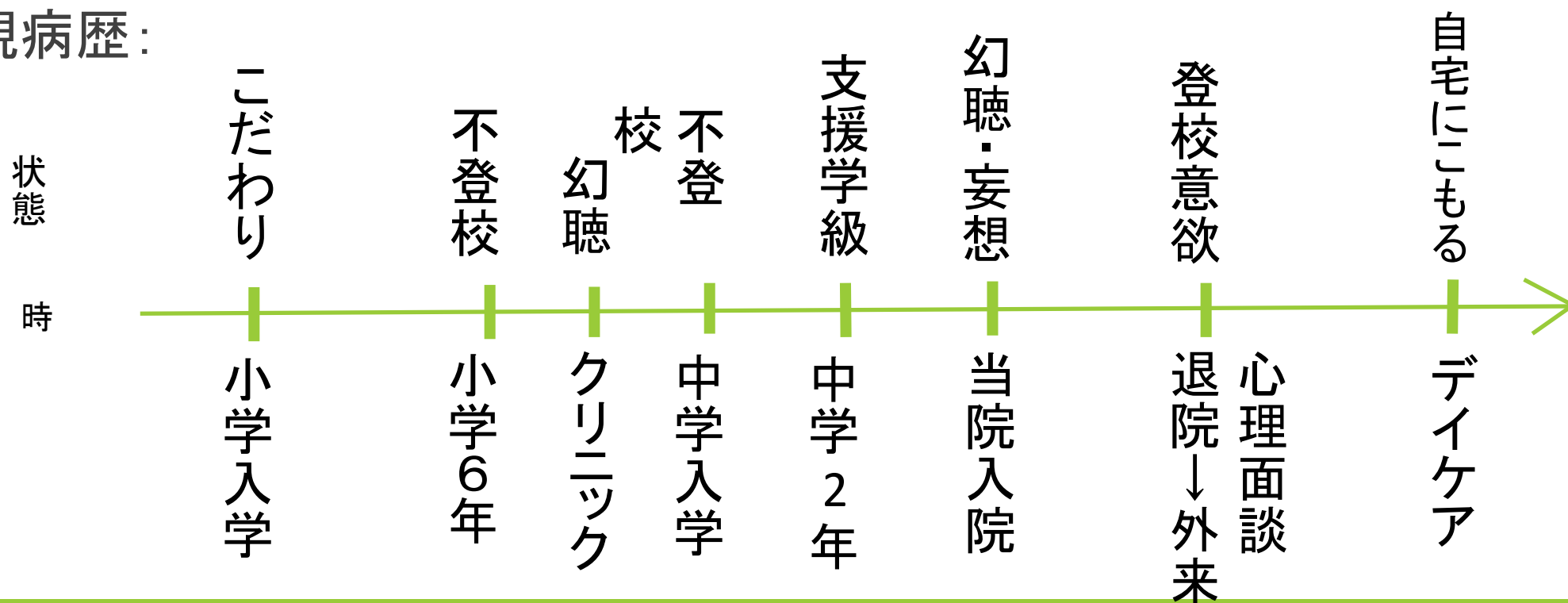
症例

A氏、10代、女性

診断：統合失調症、自閉スペクトラム障害

家族構成：父、母、A氏

現病歴：



治療経過1 デイケア導入 退院後5～6ヶ月

導入

- ・新しい環境や人への不安の強さ
- ・経験のある編み物が上手く取り組めず悔しい思い
- ・自分を責める幻聴



導入困難

治療経過1 デイケア導入 退院5～6ヶ月後

再度の導入

工夫

- ・個別の対応
- ・静かな環境の提供
- ・工程が単純な作業
- ・作業工程表を活用し取り組みを視覚化した
- ・外来心理士の同席



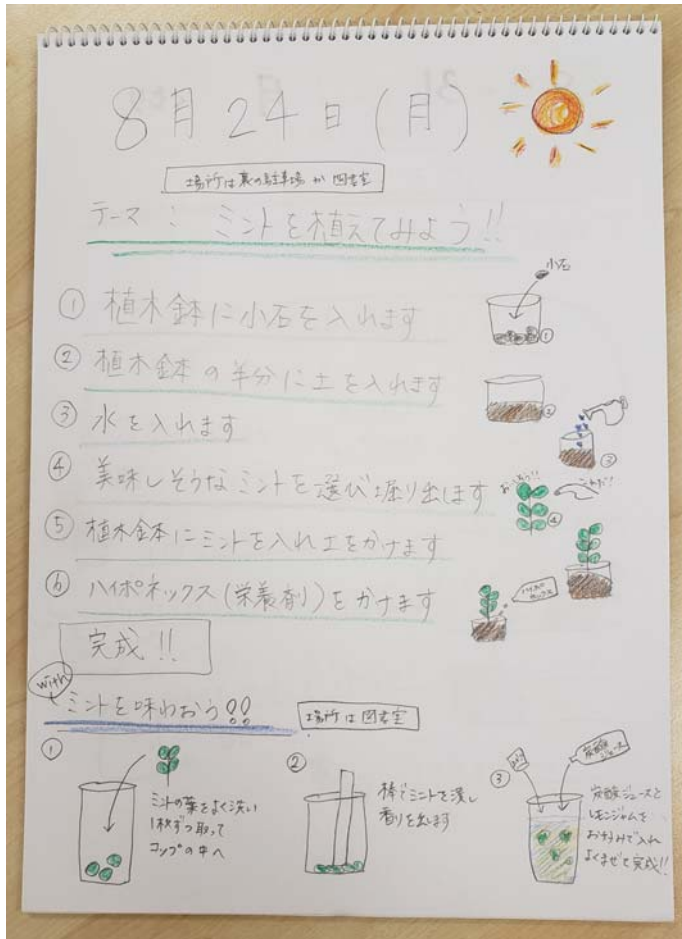
デイケア通所
活動を楽しめるようになった

作業工程表


工程が単純な作業

- ・簡単な構図の塗り絵
- ・混ぜるだけの調理
- ・植物を植える

など




治療経過2 活動の難易度を上げる 退院後7~8ヶ月

 「私にも出来た」「楽しい」と前向きな発言へ変化




- ・失敗体験に注意
- ・必要時には手を貸す
- ・出来ている事を確認

 少し頑張る事で取り組める活動に挑戦



- ・デイケアが安心安全の場
- ・担当者との良好な関係

 「出来ない」「分からない」等の自信のない発言・態度。単純作業で精いっぱい

少し頑張る事で取り組める活動

- 複雑な構図の塗り絵
- 火を使った調理
- マスクの作成 など



治療経過3 母からの分離～小集団への移行 退院後8～13ヶ月

母子分離

- 母の退席時間を徐々に増やす。
- 戻り時間、所在を明確にし本人へ伝える
- 約束時間に必ず母が迎えに来ることを理解



分離への不安軽減し、安心して活動に取り組まれる

治療経過3 母からの分離～小集団への移行 退院後8～13ヶ月

小集団への移行

「担当者と一緒になら集団の中で過ごしてみたい」とA氏より希望

- ・同世代の中で過ごす練習を兼ねて院内学校を開始
- ・担当者付き添いのもと、少しずつ学習指導者を交え課題に取り組み新しい人に慣れていった



担当者不在でも自主的に参加できるようになった

考察

安心・安全な場の確保
外来心理士との連携
共同作業を通じた楽しい時間の共有

信頼関係の構築



行動の変化
活動の幅の広がり
母子分離への不安の軽減
小集団の中で過ごせる

今後の展望

対人不安、集団への葛藤からデイケアへの導入が難しいケースは多々見られる。今回の経験から、導入時における個人支援の充実により、集団活動への契機となるよう、支援体制の見直しや工夫を行っていききたい。

参考、引用文献

- 1) 井上洋一(2007).「思春期臨床の考え方・すすめ方」 金剛出版, 149-159
- 2) M・ハーセン、V・Bヴァンハッセル 深澤道子(訳)(2001).「臨床面接のすすめ方」日本評論社